
裂やんの思いつきネタ倉庫

裂やん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

裂やんの思いつきネタ倉庫

【Nコード】

N9826Y

【作者名】

裂やん

【あらすじ】

裂やんの思いつきネタ倉庫 通称、裂庫 。裂やんの妄想が爆発します。基本、連載手前のお試し1話形式です。

無限の空へ（前書き）

裂庫第1弾は、ISモノです。

梓外の主人公、神儀紫稀とは一切関係がないわけではない。

無限の空へ

俺こと、守氣志輝^{かみぎしき}は、ただいま絶賛気後れ中だ。

何故かって？男子1名、女子28名、女性2名の計31名の視線に晒されているからだ。

別に晒されるだけならなんとも思わないのだが、その視線に込められている好奇やら侮蔑、困惑、その他雑多な感情がそうさせる。

ここはIS学園の1年1組の教室。

まずISとは、正式名称『Infinite Stratos』
通称IS。

宇宙空間での活動を想定し、開発されたマルチフォーム・スーツのことで、開発当初は注目されなかったが、『ある人物』による『ある事件』によって従来の兵器を凌駕する圧倒的な性能が世界中に知れ渡り、本来の宇宙進出よりも飛行パスワード・スーツとして軍事転用が始まり、各国の抑止力の要がISに移ることになった。

だが、そんな万能に思えるものにも必ず欠陥と言える致命的な部分がある。それが女だけしか使うことが出来ないという事。

そしてIS学園とは、その名のとおり、ISの操縦者を育成するために創設された学園。

ようは、教職員と俺と織斑一夏守氣志輝と言う例外を除いて、女ばかりという事だ。

で、どうしてIS学園に俺がいるかというと、事の発端は遡り続けると最終的には10年ほど前にたどり着くことになるのだが、とりあえず2、3ヶ月ほど前に遡ることにしよう。

その日、俺はいつもどおり、気ままな一人旅をしていた。

だが、その一人旅もあるニュースによって、終わりを迎えた。

『世界初の男性IS操縦者現れる!?!』

初めは、てっきり俺のことがバレたのかと思ったが、端末に表示されているニュースの内容を下にスクロールして確認していくとどうやら違っただけだった。

因みに、俺がISを動かせる理由は追々分かっていくと思う。

今回、ISを起動させた男の名前は『織斑一夏』。

……奇遇だな。俺の知っているやつと同姓同名じゃないか。

そいつはとてつもないフラグ体質で鈍感なやつでな。数多の女子が涙を飲んでいる。いつか背中からブスツと刺されないか兄貴分としてとても心配している。

何だかんだ思いつつニュースをスクロールし、確認するのを忘れない。

そして、『**織斑一夏**』なる男の顔写真が表示される。

.....○

うん、きっと同姓同名で世界に似た顔をした人間が3人はいる内の1人だ！絶対にそうだ！？俺は認めない！！

……すいませんでした。真正正銘の俺の知る『織斑一夏』です……。

さて、事情聴取とするか。

こういう前代未聞の事件を嬉々として引き起こすやつを俺は一人だけ心当たりがある。

端末を操作して、その心当たりのある人物の番号を呼び出す。

『もすもす終日く？みんなの魔法少女、リリカルマジカル束さんだよあく？』

此方から連絡をくれたのだが、無性に電話を切りたくなった……！？しかも、声が似ているからタチが悪い。

『んく？おかしいなく？繋がってる筈なんだけど、どうしたんだろう？もしもし、しーくん？しーくんの最愛の束さんですよく？』

「誰が誰の最愛の人だ！？」

『おおく。やっぱり繋がってたね。それで、しーくん。私に何か用なのかな？』

ツッコミをスルーされた……。とりあえず、仕切りなおすことにしよう。

「今回の件、お前の仕業だな、束？」

『今回の件って一体何のこと？束さんは何のことだかさっぱりだよく』

分かっているくせに惚けるか。

「一夏がISを動かした件についてに決まっているだろう」

『いつくんがISを動かせたから、東さんが何かしたって思ってるの?』

「世界を混乱させることを仕出かすのはお前を置いて他にいないだろうが」

『でも、それだけじゃ、私が犯人とは言えないと思うな』

「その発言自体を自白だと思っ*て*いいんだな?」

『東さんは肯定も否定も、一切してませ〜ん』

「……もういい。今回は、コレくらいにし*と*いてやる」

『そうそう。しーくんに頼みたいことがあるから、近いうちに会いにきてね。私の居場所は後でデータ送るから』

「頼まれてやる。じゃあな」

『ばいば〜い』

一夏の件には疑いようもなく、『天災』篠ノ之束が関わっている。

これが分かっただけよ*し*とするか。

さて、もう一件連絡しないといけないところがあったな。

端末を操作して、ウサギとは別の人の番号を呼び出す。

『もしもし?』

「俺だけど、元気してた?」

『ああ、お前か。丁度今、お前に連絡しようと思っ*て*いたところだ』
「へ?どうい*う*ことだ?」

『どこぞのバカが男なのにISなんてものを動かしたせい*で*な、一部の権力者が本当の初男性IS操縦者もIS学園に入学させるといっ*た*らしくてな。結果、その発言ど*お*りになっ*た*』

「……そういうことか。全く誰だ、そんなことを言*い*出したのは…

…」

『……轡木さんだ』

なるほど、あの人が。それなら、取り入って世界に対する影響力が欲しいというわけではなさそうだ。考えられるとすると……ああ、そう言うことか。

「で、俺はいつそつちにつけばいい？」

『入学式の前日に他の新入生より一足先に寮に入ってもらいたいらしい』

「了解した。俺の入試とか寮の部屋とかはどうなっている？」

『筆記・実技ともに無条件合格、寮部屋は角部屋の2人部屋を宛がうらしい。部屋の内装とかは希望があるなら、改築費などを出すらしいぞ。かなりの待遇だな』

「まあ、それくらいの待遇は当然だろう。世界の認識では、どうやら俺は、『ブリュンヒルデ』と『天災』並みに大きい存在らしいかな」

『過ぎた謙遜は身を滅ぼすぞ。はっきり言って、私たちよりもお前の方が世界が欲してるだろうが。なあ、『太極者』？』

「なんだよ、その厨二病な二つ名は。まあ、いい。それじゃ、入学式の前日にな」

『ああ、待っている。志輝』

そうして、俺は電話を切った。

そんな会話が あったのが、大体2、3ヶ月ほど前。

あの後、ウサギにお使いを頼まれ、入学式前日にIS学園入りし、千冬にウサギから頼まれた物を渡して、そのまま俺に割り当てられた部屋に向かつて、荷物を整理し、眠った。

で、起きて翌日。

入学一日目の準備を終えて、寮を出たと同時に千冬に拉致され、疲れることになって、先に教室に入った千冬に一夏が叩かれ、一段落した後に教室の中から呼ばれ、教室に入って冒頭に戻る。

まあ、その後は無難な自己紹介をしたら、女子達が一斉に叫びだし、弟分の一夏と可愛い妹分の箒とも無事に再会できた。

1時間目、隣の席の一夏は唸っていた。どうやら、全く授業についていけないようだ。

1時間目の休み時間。箒が俺と一夏のところにやって来て、少々雑談し、相変わらず箒が一夏を好きなのが再確認出来た。

2時間目、一夏がやらかした。見るに見かねたというか、山田先生が一夏に質問がないかと聞いたところ、「ほとんど全部分からない」と。入学前の参考書を古い電話帳と間違えて捨てたらしく、千

冬からありがたい出席簿攻撃を受けていた。

2時間目の休み時間。俺は、一夏のアホっぷりに哀れさを感じえず、勉強を見ていたところ、金髪が鮮やかな、『いかにも』な雰囲気を出している女子に声を掛けられた。

とりあえず、こういう類のには関わりたくないの、スルーし続けたが。その時に、入試主席がどうか、試験教官を倒したとか言う問答があった。

俺はどうだったかって？本当なら無試験でいいはずなのに、実技だけはやらされた……。入学式に出席していなかった理由はそれだったりする。勿論勝ったけど。

で、3時間目、千冬が今思い出したと言わんばかりに「クラス代表を決めないといけない」とか言い出した。はつきり言つて、俺がクラス代表なんてなったら、実技関係のものは俺の一方的撃墜にしなければならないからな。

俺の祈りが届いたのか、推薦者は一夏で、当の本人は「自分以外にも織斑っているんだな」とか思ってたっぽい、千冬が確認の為に一夏の名前を出した途端慌てだし、俺を巻き込んだ。そして、今まで黙っていた先程の入試主席とやらが色々と侮辱してくれたので、うっかりキレてしまった。一夏もキレかけていたようだが、先に俺がキレたことで、徐々に冷静さを取り戻していたらしい。

俺と金髪さんが問答をしていると、クラス代表を決めるために何か試合をすることになった。

あれ？どうしてこうなった……？

無限の空へ（後書き）

この後、チヨロい人は先に一夏と戦い、一夏の凡ミスで1勝します。ついでに言々と原作通り一夏に堕とされます。

2戦目は志輝とチヨロい人で、志輝が圧倒します。

3戦目は志輝と一夏ですが、機体性能的には志輝の『無銘』の方が若干上回ってる程度ですが、圧倒して志輝が2連勝となります。

クラス代表は、事務担当を志輝が、実技担当を一夏がやるといった感じ。

クラス対抗戦では、それぞれクラス代表と副代表が出場し、1対1で4クラス8人で戦います。なので、志輝と一夏が参加。

志輝は圧勝しますが、一夏対酢豚は原作通りに進みます。

まあ、そんな感じ。

そしてここで、本編で語られていない裏話。

枠外の主人公、神儀紫稀の名前の意味は、

稀（滅多にない）

紫（ゆかり 縁えにし・えん、出会い）

神（神様かたごゑ）
儀

滅多にない出会いは、神をかたどる

紫稀が神通力を使えるのはこういった理由だったりします。

で、IS側のカミギシキは

守（守る）

氣（気持ち）

志（こころざし、意志）
かがやく
輝

守る気持ち、その意志は輝く

といった感じ。

これが連載されることがあるかは謎ですが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9826y/>

裂やんの思いつきネタ倉庫

2011年11月29日19時51分発行